

# 茶道と キリスト教

6月  
19日  
(土)

① 10:25～10:30

## 挨拶

上智大学教授 川中 仁

② 10:30～11:30

## ミサと茶の湯に見る天地人の調和

— キリスト教と侘茶の本質的一致についての考察 —

陶芸家・茶人 椿 巖三

③ 13:00～14:00

## キリスト教と茶道との出会い

— 世俗の内なる福音と修道 —

上智大学教授文学部哲学科 名誉教授 田中 裕

④ 14:15～15:15

## 適応主義にみる安土・桃山時代の茶の湯

関東学院大学国際文化部 非常勤講師 スムットニー祐美

⑤ 15:45～16:45

## シンポジウム

(司会) 上智大学教授 竹内 修一



【開催方法】会場+オンライン

【会場】上智大学中央図書館9階921会議室

【参加方法】①来場ご希望の方 定員50名

②オンライン参加ご希望の方「Zoom」を使用。お申込み受付後、当日までにURLをお送りします。

【申し込み方法】下記URL またはバーコードよりサイトにアクセスいただき、必要事項をご記入ください。

(申込フォームURL) <https://forms.office.com/r/9GPF7ts6P>

【聴講料】一般1,000円 学生:800円※集金方法はお申込み受付後、ご案内いたします。

【問合せ】ご不明点等ございましたら、上智大学キリスト教文化研究所までお問い合わせください。

(問合せ専用メールアドレス) [kiriken-co@sophia.ac.jp](mailto:kiriken-co@sophia.ac.jp)

電話:03-3238-3540 (受付時間:月曜～金曜 11:00-14:00)



※開催方法、問合せ受付時間は変更になる場合がございます。最新情報は研究所HPをご確認ください。

# テーマ 「茶道とキリスト教」

## 「衝突を超えた霊性の対話」

茶の湯は、かつて養生の一手段に過ぎなかった喫茶を、列島独自の自然観、美意識を持つ精神文化にまで昇華させた、日本文化を代表する芸道である。西欧精神文化の根底をなすキリスト教とは、一見、何の関わりもないかにみえる。しかし近年、両者には、例えばその流麗な所作・作法において、あるいはそれを支える深い精神性において、密接な繋がりのあることが明らかになってきた。例えば、日本史研究者のスムットニー祐美氏は、著書『茶の湯とイエズス会宣教師—中世の異文化交流—』において、ルイス・アルメイダやヴァリニャーノ、ジョアン・ロドリゲスといったイエズス会士たちが、茶会や茶の湯にいかに関心を寄せ分析をしたか、豊富な文献資料を用いて論究されている。イエズス会士たちは茶の湯に何を感じ取り、茶の湯はキリスト教思想から何を学んだのだろうか。そこには、単なる歴史事象としての文化接触を超えた、極めて精神性の高い対話が浮かび上がってくる。

本年の上智大学キリスト教文化研究所連続講演会では、先のスムットニー祐美氏をお招きし、茶の湯をめぐる中世の異文化の邂逅についてお話しいただくほか、福音の精神を根幹に茶道・陶芸を实践し、『陶芸と聖書』の著書もある椿巖三氏に、40年に及ぶご自身の製作活動について、作品を拝見しつつお話を伺う。また、上智大学名誉教授の田中裕氏に、キリスト教の修道院的霊性と佗茶にみる日本的霊性との交渉から、テーマについてさらに深く掘り下げていただく。

「茶道とキリスト教」の問題は、西欧の大航海時代と日本の戦国時代に限って出来た、遙か昔の特殊な異文化交流に止まるものではない。それは、異なる歴史・文化に育まれたものどうしがイデオロギーの衝突を克服し、真実の平和を構築しようとする霊性的交流の实践として、時代を超えた現代的意味を持つのである。

